●親子で遊ぼう学ぼう魚とりについて以下の決定をし、参加希望者に連絡しました。

「親子で遊ぼう学ぼう魚とり」の中止について

上記の取組みのご応募いただきましてありがとうございます。また里山の会ホームページを
ごらんになっていただきありがとうございます。

さて今年の夏は、異常な天候で降雨は殆どなく木津川本流は高山ダムで 10 トン程度の放水にな
っており、そして支流からの流水も見られなくなっております。これまで行ってきた普賢寺川や
青谷川は枯渇しています。魚の姿は見られません。加えて高温が続く真夏日が相当続いており、
熱中症予防の警告も厳しく叫ばれています。その上にコロナ渦の再拡大、まさに三重苦という状
況です。

里山の会のスタッフの大多数が 25 年の活動継続から 80 歳前後となり、今年は体力の低下から
中止せざるを得ないとの結論に至りましたが、期待されている皆さんがおいでになるから 1 回は
開催すべきとの意見があり開催の準備をすすめてまいりました。

しかし、大阪での緊急事態宣言、京都も蔓延防止措置の発令もあり、万が一の事故発生の場合
を想定すれば、安全第一とした場合、やむなく中止が妥当と苦渋の判断に至りました。

折角の貴重な体験に希望をもって応募いただきましたが、異常な諸般の事情を深くご理解いた
だきまして、ご了承下さるようお願い申し上げます。

尚、当日は、井手町玉水浜に設置いたしました中聖牛付近で生き物調査を、8 月 8 日午前 9 時よ
り京都大学生と里山の会のレギュラーメンバーが学術的な調査として短時間実施いたします。公
募による一般参加募集は行いませんが、自主的な参加は可能です。

お越しになる場合は、自主的にコロナ・熱中症対策には念を入れてお越し下さい。まずはお知ら
せまで。

ところで、今回応募いただきましたみなさまから次年度はどうするかとお問い合わせをいた
だきました。

里山の会は、「自然を大切に作る仲間の輪を大きくする」というスローガンを掲げて 25 年目を
迎えております。先日、次年度は間違いなく一つ老齢化が進みますのでより厳しい条件になるこ
とは明白でございます。

これまで川での活動では、国交省近畿地方整備局淀川河川事務所に所属する河川レンジャーと
の共催で国交省が保険などの後ろ盾となる支援があつて一級河川での活動が可能となってき
ました。

今後、木津川などでの楽しい経験を継続するため、皆様がスタッフとして開催できる一翼を担
っていただければ誠に好都合でございます。できますなら窮状をお察しいただきまして、ご協力
いただけないでしょうか。次代を担う子どもたちのために是非ともよろしく願いいたします。

里山の会では毎週水曜日午前中事務局会議を開いておりますので、良いお返事をお待ちして
おります。

2021 年 8 月 4 日 NPO やましろ里山の会 理事一同

誠に残念であります、このコロナ禍の状況ではやむなしとの判断をしました。どうぞご理解
ください。

●京都府地域交響プロジェクト交付金申請 事務処理整う

先週の修正で申請書類の提出が完了していると判断していましたが、またまた補強補充添付の指示があって、有田さんに最終の手続きを行っていただきました。これで今度こそその修正終結になるものと思います。そしてこれから事業の推進に本格的になるわけですが、コロナウイルスの再拡大が異常なスピードで、医療崩壊へ突き進んできていて屋外でのイベントも軽く見るわけにいかなくなって、厳しい状況になってきました。特にコロナウイルスワクチンの接種の対象者にまだ該当していない若者での感染拡大が懸念されていますので一層心配です。京田辺でも一日の感染者数が二けたに及んでいると報道されていますのでいよいよ身近に迫ってきているようです。

●過日（8月1日）に中聖牛設置場所付近の地形観察のための作業が京都大学の学生さんと竹門康弘先生の手で行われました。里山の会から大村理事長や太田理事、森島理事が参加して、測量には直接お手伝いはできませんでしたが、イタセンパラの復元を目指しているワンドへの通路の除草を行いました。春にいち早く刈り取ったところでしたが雑草の成長は考えていたよりも早く背丈を超える高さになっていてひと月ほど前には、はっきり見えていたところは見事に茂っていて、なかなか通路を見つけることができませんでした。2台のハンマーモアを稼働させたのですが車軸の固定ピンが折れて修復に大変時間と手間がかかり汗だくの大仕事となりました。これで良しとなってさあ本格的に除草ができると思ったときに、今度はキャリーベルトが脱落することになって、その修理にそれまで以上に真夏日、真昼間で猛烈な汗をかいて時間が過ぎました。何とか新型のハンマーモアで森島さんが駐車場からタマリへの北側通路を切り開いていただきましたが大変な作業になりました。

●木津川でのアユの遡上は例年以上の素晴らしいという情報です。

●8月4日の暑さ真っ盛りの中、今年の中聖牛設置に用いる竹蛇籠製作の竹の下見に福井波恵さんと太田敏之さん播川司さんが木津川の竹やぶの点検に出掛けていただきました。この近辺はこの日35度を突破する猛暑でした。本当にご苦労さまでした。これで今年の中聖牛の製作に間に合わせる見通しがつくのではないかと思います。竹蛇籠45本作製には長さ7mで直径18cmの真竹が約230本という相当な量が必要なのです。割った竹の幅が4, 5cmの均一な幅にしないと蛇籠がうまく製作出来ないのです。

竹選びには大変な手間と労力が必要なのです。